



皆様におかれましては、感染症対策の取り組みにご理解、ご協力をいただいておりますこと、心から感謝を申し上げます。

4月16日、熊本地震の本震が起きた日でした。突然、甚大な被害が出て、何気ない日常が一変しました。

あれから4年。まだまだ苦しんでいる方がたくさんいて、誰しも少なからず影響が残っていると思います。

復興は道半ばですが、そのような中でもそれぞれの一步を前に進めようとしているのではないのでしょうか。

毎年のように世界中で立ち直れないような出来事が起きています。そして現在も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で広がっています。

そして4月16日、全国的な拡大に伴い、緊急事態宣言が全都道府県に出されることとなりました。

ヒリヒリするような毎日を送る中で、不信感や疑心暗鬼、ときには誰かを傷つけてしまうこともあるんだと思います。

4年前、マグニチュード7.3の地震により地域のライフラインが切れ、園の先生たちも避難所や車中での生活になりました。みんな同じ被災者であるにもかかわらず、余震の続く中、なにか私たちにできることはと発災当日から避難の受け入れをし、園庭開放や物資供給、すぐに厨房をお願いしている業者さんにパンと水を何とか確保して頂き、たくさんの方の支援を頂いて、中3日で預かり保育が始められるようになりました。阪神淡路や東日本大震災の資料や研修内容を取り入れ、安全確保や心のケアについても最新の注意を払い、一つ一つ悩み苦しみながらも、何とか日々の教育保育や行事を実施し、力強く成長していく子どもたち、あたたかい保護者の皆様、助け合える地域と共に、一日一日を前向きに乗り越えていくことができました。

現在の困難も「きっと乗り越えられる」と信じて、一日一日、一つ一つを大切に、子どもたち、保護者の皆様、地域に寄り添いながら進んで参ります。

公教育の一翼を担っているその性質上、制約があり、皆様への配慮が十分とは言えないのではないかとということもあるかと存じます。その中でも最大限の努力をして参りますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

三寒四温。

体調管理の難しい季節です。くれぐれもご自愛ください。